

特集！国を支える技術系公務員！

デジタル・電気・電子

関東総合通信局

電波監理部電波障害分析課

令和6年度採用

Q. 印象に残っている仕事は何ですか。

外部からの申告をもとに、電波障害の原因となる不要な電波の発射源を特定したことです。さまざまな測定器やアンテナを使用して徐々に電波の発射源を絞り込んでいき、最終的に発射場所を特定できた時は達成感がありました。原因は海外から持ち込まれた家電と判明し、電波環境の秩序を守ることの重要性を感じた案件でした。

～受験生へのメッセージ～

総合通信局は無線局の許認可・電波監視・ICTの推進といった情報通信に関する業務を行っており、さまざまな角度から技術系の知識を生かすことができます。もちろん電波や通信に関する知識がなくても研修や業務を通して身につけられますので、ぜひ当局にお越しください。



Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

大学では電気電子工学を専攻していました。業務では電波や通信に関して覚えることはたくさんありますが、大学で身につけた基礎知識があることで、スムーズに理解できていると感じています。また所属している電波障害分析課では調査結果をまとめるなどアウトプットの作業が多いので、レポートの作成にも活かせています。

機械

東京都警察情報通信部

機動通信第二課

令和5年度採用

Q. 印象に残っている仕事は何ですか。

担当しているシステムの運用試験を刑事ドラマに出てくるような現場内で行ったことです。そこは普段では立ち入ることのできない場所で、漠然としたイメージしかなかった警察の活動現場を目の当たりにして、このとき初めて自分たちの仕事が犯罪捜査や治安維持に貢献していることをより強く実感し、身の引き締まる思いがしました。



～受験生へのメッセージ～

警察庁技術系職員の業務は、主に情報通信分野がメインになりますが、採用区分が機械でも十分に活躍でき、さらに新しい視点に立って警察活動を支えることができる、とてもやりがいのある仕事です。国民の安心安全を守る仕事に皆さんの知識や経験を活かしてみませんか？

Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

大学では機械工学を専攻し、機械の設計製図、材料加工やプログラミングなどを幅広く学んでいたので、デジタル機器の取扱いやプログラミングの知識など、システムの保守に活かせています。情報通信分野の知識を専門に学んでいなくても、入庁後に警察のシステムに関する研修等が充実していますし、日々の業務で先輩が優しく教えてくれます。

土木

東京航空局

東京空港事務所 施設運用管理官(基本施設)

令和4年度採用

Q. 印象に残っている仕事は何ですか。

東京国際空港（羽田空港）で航空機が頻繁に走行する誘導路の広範囲で舗装の変形（凹み）が発生し、航空機の走行に支障を及ぼす懸念があつたため、舗装補修の計画を立案しました。工事業者や航空会社等の空港関係者と綿密に調整を行った結果、大規模な補修を迅速に開始することができ、その後、航空会社からも感謝の言葉をいただき、自分の仕事への重要性を感じたことが印象に残っています。

～受験生へのメッセージ～

空に一番近い国家公務員として、「日本の空」を支える空港技術職として、航空輸送の発展に携わってみませんか。航空の仕事に興味がある方は、ぜひ受験してみてください。



Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

大学は土木工学を専攻しており、主に防災や環境保全などについて知識を深めていました。空港は防災拠点としての役割を担っており、周辺環境へ配慮も必要となります。また、航空機が通る滑走路、誘導路の維持管理や、空港内にある施設の整備を行う際にも、大学での専攻が活かされています。



～受験生へのメッセージ～

ぜひ国の現場で働いている職員の話を説明会などで聞いて、職場の雰囲気を見てみてください。これまで学んだ知識を活かしながら、各機関の立場から建物に携わることができます。一緒に仕事ができるのを楽しみにしています。

Q. 印象に残っている仕事は何ですか。

宮崎部では、各省庁の様々な建物の新築や改修などを行います。担当していた新築庁舎では設計から工事までの間、入居する省庁の方々の要望をとりまとめ、設計図面に反映させ、予算管理を行い、近隣住民への説明や要望に対応するなどの苦労がありました。ようやく建物が完成したときに、入居省庁の担当者から感謝の言葉をいただけたときにはやりがいを感じました。

Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

大学では建築構造を専攻していました。設計図面や構造計算書のチェック、工事現場での施工確認を行う際に「実際はこうなっていたのか！」と理解できることが多く、大学で学んだことが仕事に活かされていると感じています。特殊な施設や歴史的な価値のある建物を含め、多様な建物に設計、監督、保全など色々な方面から携わることができるところが魅力だと思います。

物理

東京管区気象台

宇都宮地方気象台観測予報管理官

令和4年度採用

Q. 印象に残っている仕事は何ですか。

前任地の航空地方気象台にて、雲や大気現象を実際に外に出て観測し通報を行ったり、時には管制官とやり取りをしたりとユニークな業務が印象的でした。現在所属の地方気象台では、学生に講義をしたり、市町を訪問したり、県内の観測機器のメンテナンス等に出かけたり、防災情報を作成したりと、総じて多様な業務が魅力的です。

～受験生へのメッセージ～

気象・防災はもちろん、地震火山、情報通信、船などの海洋気象、気象衛星や航空など様々な分野の業務があり、入庁後に興味の持つ分野を探したり、元々目指していた分野に進んだりと選択の幅が広いところが私は魅力に感じます。近い将来、あなたと一緒に働くのを楽しみにしております。

Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

物理を専攻していました。入庁後に気象を学ぶのですが、物理の考え方など基礎知識が理解に役立ちました。また、特別な資格や知識が必要と思われることもありますが、気象を初めて学ぶ人が思っていたよりも多く、充実した研修に加え先輩職員の方々も丁寧に教えてくださるので、すぐ環境に慣れると思います。初めて学ぶからこそ知ると楽しいです。

化学

東京税関



～受験生へのメッセージ～

税関の業務は幅広く、分析部門以外にも化学品の通関審査など理系のスキルを発揮できる機会が数多くあります。そして、これまで学んだ知識を活かしながら、自分の適性に合った場所を見つけていくことができます。貿易の最前線で、理系の知識を活かしながら働いてみませんか。

Q. 印象に残っている仕事は何ですか。

前例のない物質の分析を行ったことです。税関の分析部門では、海外から輸入されるあらゆるものを分析しているため、国内に流通していないものを分析することもあります。手法を検討し、試行錯誤しながら実験を行うことには苦労もありましたが、前例のない物質を扱う分析は、この仕事ならではの面白さだと感じています。

業務部分析部門

令和3年度採用

Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

大学では主に分析化学を学んでいました。現在所属している分析部門では、様々な分析機器を用いて、輸出入品や不正薬物など多種多様な貨物についての成分分析を行っています。化学に関する基礎知識やデータの取り扱いの考え方、実験器具や試薬等を適切に扱う技術を活かし、日々の業務に取り組んでいます。

業務部輸出検疫担当

令和6年度採用

Q. 印象に残っている仕事はですか。

最初の配属は海上コンテナで輸入される青果物や穀類等の検査を行う部署だったのですが、毎日港に運び込まれ、そして運び出されていく品物の多さに圧倒されました。それまであまり考えたことのなかった物流のダイナミックさを感じるとともに、輸入検疫はそんな物流の世界に関わっているのだと意識させられる経験でした。

～受験生へのメッセージ～

植物防疫所は、病害虫の侵入・蔓延を防ぎ、日本の農業を守り支えています。

植物病理や害虫に限らず幅広い専攻の職員が働いていますので、植物防疫所に少しでも興味を持った方は、ぜひ業務説明会やインターンシップに参加してみてください。



Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

現在の部署では日本から海外へ輸出する植物等の検査を行っています。大学では植物病理学を専攻していたのですが、特に種苗類の輸出では輸出先国が警戒する病害虫が付着していないことを証明するためにPCR法、ELISA法、菌類の分離培養などををする場合があり、大学での経験が役に立っていると感じます。

農業農村工学

関東農政局



手賀沼農地防災事業所工事第一課

令和6年度採用

Q. 印象に残っている仕事はですか。

自分の現在の担当である手賀排水機場建設工事で初めて行った監督業務はとても印象に残っています。鋼管矢板の圧入作業の監督だったのですが、施工手順や使用機械・材料など、紙やデータ上では分かっていても、実際に現場に行くとその大きさや工程の複雑さを実感できます。また、現場周辺の住民の方への配慮も踏まえて、どのように工事を実施していくのかを意識して業務にあたる経験はとても新鮮なものでした。

Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

大学では水環境系の研究室に所属し、農業農村工学を広く学んでいました。土質力学、水理学等の考え方は農業水利施設の設計、施工に必要となる基礎知識であり、現在担当している排水機場の建設工事における基礎杭の支持力確認などに役立っています。また、研究室で行った水質調査等も工事監督として確認する項目となるため、学んだ知識を活かすことができています。

林学

関東森林管理局

下越森林管理署業務グループ(森林育成・土木)

令和4年度採用

Q. 印象に残っている仕事はですか。

私が現在の業務に携わるようになって初めて監督を行った海岸林の松くい虫防除事業が印象に残っています。これまで知識として知っていた松くい虫被害に係る保護事業について、実際に現場に出て作業手順や周辺地域・住民の方への配慮も踏まえてどう事業を実施するのか意識して業務にあたる経験はとても新鮮なものでした。

～受験生へのメッセージ～

国有林での業務の大きな特徴は、国が直接森林を管理することができるという点にあると思います。そのため、従来の手法による森林経営に限らず、新たな技術を利用した森林経営の検証にも積極的に挑戦することができる環境があります。興味のある方はぜひ受験をしてみてください。



Q. 大学での専攻は仕事においてどのように活かされていますか。

私は学生の折、林学関係の研究室に所属していました。そこで学習した造林作業に係る知識や地域ごとの目的に応じた森林整備の考え方は、現在携わっている造林・保護事業でも役立っています。また、ドローンによる空撮画像を用いた林況調査等、ICT技術の林業分野への利用について学べたことも、現在の業務における後押しとなっています。